



**第7回(平成25年度)  
おおさか優良緑化賞  
受賞事例集**

## ■ 「おおさか優良緑化賞」とその目的 ■

大阪府自然環境保全条例等に基づいてなされた緑化のうち、府内の都市環境の改善に貢献する緑化や、都市の魅力向上に資する緑化、新たな緑化手法のモデルとなる緑化等、特に優れた取組みに対し顕彰するものであり、建築主の施設に対する緑化意欲の向上や緑化技術の普及促進を図ることを目的としています。

## ■ 選考方法 ■

大阪府環境審議会環境・みどり活動促進部会による選考を経て、大阪府が受賞者を決定。

大阪府環境審議会環境・みどり活動促進部会委員 ※50音順

大阪教育大学准教授	石川 聡子
大阪市立大学大学院准教授	嘉名 光市
大阪府立大学名誉教授	谷田 一三
株式会社辻本智子環境デザイン研究所代表取締役	辻本 智子
大阪産業大学大学院教授	花田 真理子
近畿大学教授	藤田 香
大阪府立大学大学院教授	増田 昇 【部会長】

## ■ 総評 ■

部会長 増田 昇

大阪府自然環境保全条例等に基づいてなされた緑化物件を対象とした本賞は、本年度で第7回目を迎えている。今回は共同住宅が3件、学校が2件、福祉施設と事務所、事業所がそれぞれ1件と、応募された建築物用途は多岐に渡り、多様な施設で緑化の重要性が認識されていることがうかがわれる。一方、申請件数は合計8件と少なく、本賞の意義や普及への課題も見出された。緑量、周辺環境との調和、配置・デザイン性、敷地外部への貢献度、緑化技術、維持管理、その他の特筆事項の7点から審査を進め、大阪府知事賞3件、奨励賞2件を選定した。また、受賞物件5件の中から生物多様性の保全に配慮された物件1件を生物多様性賞とした。奨励賞の2物件は現状では新規植栽のため緑量や敷地外部への貢献度などに若干課題が認められるものの、樹木の成長によって今後が十分に期待できる物件である。大阪府知事賞の「ミリカ・ヒルズ」と「大阪木材仲買会館」は既存樹木の保全や活用によって緑化の多様な効果が発揮されていることに加え、「ミリカ・ヒルズ」はそのことによって生物多様性の保全にも十分配慮されたものと評価された。もう一つの大阪府知事賞の「東大谷高等学校泉ヶ丘校舎」は空間デザインや緑化技術などに加え、校庭の芝生緑化に見られるように、全校生徒も巻き込んだ緑化への取り組みが高く評価された。

このパンフレットの表紙は、大阪芸術大学の協力を得て、学内コンペから選ばれたデザインを使用しています。

(デザインコンセプト)

「緑化賞のデザインという事で、清々しい青空と緑の若芽で自然の爽やかさを表現しました。また、若葉が大樹を形作るデザインを用いて小さな緑化も大きな自然を作り出すというメッセージを込めました。」

大阪芸術大学芸術学部デザイン学科 隅 ほなみ



# 大阪府知事賞・生物多様性賞

## ミリカ・ヒルズ

所在地：吹田市  
 主用途：共同住宅  
 建築主：株式会社大京  
 東京建物株式会社  
 関電不動産株式会社  
 株式会社長谷工コーポレーション  
 新日鉄興和不動産株式会社

設計：株式会社長谷工コーポレーション  
 建築施工：株式会社長谷工コーポレーション  
 造園施工：株式会社日比谷アメニス

### ■ 講 評 ■

本件は、千里丘陵に残された貴重な既存木を敷地外周部において積極的に保存し、その林内での遊歩道の整備や補植によって敷地外部への豊かな緑量の提供とともに、これまでの地域景観の継承に取り組まれている。これらの既存樹木の保存に加え、敷地に隣接する保全緑地では、密生していたコナラ林の間伐によって健全な植生の回復が目指されているとともに、隣接する「星が池」と一体となって生物多様性の保全にも貢献している。また、敷地内の随所に重機による大径木の移植も試みられているとともに、連続性のある中高木の緑陰を縫うように園路が設けられており、居住者ばかりでなく周辺の人々も自由を楽しむことのできる緑化空間が創出されている。敷地中央西側の共用棟には、地上部からなだらかに続く丘状の屋上緑化がなされており、奥行きのある緑の空間が創出されているとともに立体駐車場の圧迫感も大きく軽減させている。

(増田 昇)



生物多様性保全に貢献している園路沿いの植栽



敷地外部へ豊かな緑量を提供している接道部緑地



敷地内に保存された既存木



周辺の人々も自由を楽しむことのできる緑化空間



地上から共用棟屋上にかけての丘状の緑化





## 東大谷高等学校泉ヶ丘校舎

所在地：堺市

主用途：学校

建築主：学校法人大谷学園

設計：株式会社竹中工務店

建築施工：株式会社竹中工務店

造園施工：株式会社朝日興産

### ■講評■

当施設は泉北ニュータウンの中にあり、周辺に点在する大規模緑地との自然生態系ネットワーク、また接道部の緑陰形成から敷地周辺部に地域自生の樹種を植栽していることが評価される。

さらに注目されることは、校舎内には全面芝生のグラウンド、教室横にはエゴノキの休憩ベンチが置かれているだけでなく、屋上には教師と生徒が共同で栽培を行う田んぼと畑が設置されている。昨今、小学校の運動場の芝生化・ピオトープづくりは常識的なものになってきているが、日常の暮らしの中で緑とのふれあいが急速に少なくなっていく高校時代に、緑に直接触れる機会を日常生活空間で提供することは、小さな時に自然に触れ体験した感動と緑の大切さ・すばらしさへの意識を、五感を通して、これからの人生に持ち続ける「つなぎ」となるという点で非常に評価できる。

(辻本 智子)



全面芝生のグラウンド



屋上部に設置されている田んぼ



生徒が緑とふれ合える空間



校舎内からも見えるエゴノキの休憩ベンチ

## 大阪木材仲買会館

所在地 : 大阪市  
主用途 : 事務所  
建築主 : 大阪木材仲買協同組合  
設計 : 株式会社竹中工務店  
建築施工 : 株式会社竹中工務店  
造園施工 : 株式会社朝日興産

### ■ 講 評 ■

本施設は周囲に緑の少ない都心部にあって、木質建築の施設外観と周囲の緑化部分との調和の美しさが特に印象的でした。樹齢50年を超える既存のサクラの古木2本を保存するために、建物自体のデザインを緩やかな弧を描く形状とし、さらにツツジなど低木の植え込みを外部との境界に配した結果、柔らかで美しい景観を地域に提供しています。

また、時間を指定して施設を一般開放し、建物側のベランダからの眺めと、道路側から見上げる景観の双方を一般の人も楽しめる配慮がなされています。さらに今回新植したサクラは、現在のシンボルツリーの古木の枯死に備えるものですが、長期的視点を持つ緑化の事例として他施設の緑化の参考にもなると考えられます。全体として、木材仲買会館という施設の特徴を緑化で表現している点、自然に対する敬意の感じられる点が素晴らしいと思いました。

( 花田 真理子 )



柔らかな景観を形成する低木のレイアウト



正面に広がるサクラが望めるベランダからの眺め



保存された樹齢50年を超える建物正面のサクラの古木



## 奨励賞

### バイサイドシティコスモスクエア駅前



隣接する運河と一体となったうるおいある緑と水あふれる環境



高低差を利用した立体的な植栽



季節感のある多彩な植栽

所在地：大阪市  
主用途：共同住宅  
建築主：東レ建設株式会社  
アートプランニング株式会社  
近畿菱重興産株式会社

設計：株式会社長谷工コーポレーション  
建築施工：株式会社長谷工コーポレーション  
造園施工：株式会社日比谷アメニス

#### 講評

敷地外周部のほとんどが緑化され、隣接する運河と一体となつてうるおいある緑と水あふれる環境づくりが実現された集合住宅です。道路側は並木と合わせた樹種により敷地内外で一体性ある緑環境が実現され、運河側は高低差のある斜面に季節の変化が感じられる多彩な植栽が立体的に施され、運河沿いの水辺遊歩道と一体となって緑あふれる空間づくりに成功しています。道路側、運河側ともにパブリック空間と接していることから、周辺環境への貢献や、景観の向上に寄与している点が特徴的で、公共性の高い緑空間を創出しています。また、外周部に緑化を集中的に配置していることによって、建物の圧迫感を軽減する効果や、プライバシーの確保といった諸課題をうまく解決しています。今後の適正管理によって地域に親しまれる場となっていくことが期待されます。

(嘉名 光市)

## 奨励賞

所在地：堺市  
主用途：学校  
建築主：学校法人関西大学  
設計：株式会社竹中工務店  
建築施工：株式会社竹中工務店  
造園施工：株式会社朝日興産

#### 講評

地域の在来樹種を中心に多数の樹木が植栽され、将来が楽しみな緑化です。鳥の飛来が見られるようになったとのことで、生物多様性にも寄与する可能性があると期待しています。今後は、地元のアマチュアや専門家、あるいは野鳥の会などと連携して、バードセンサスを実施していただければと思います。もちろん、昆虫や植物相の調査、できれば経年的な変化を見る調査も実施すると貴重な知見になるでしょう。

体育系のクラブの活動のためには、グラウンドの人工芝もやむを得ないと思います。しかし、人工芝は最小限の使用に限り、また本来の緑化域との連関性も配慮されると期待しています。また、植栽樹などの管理にも十分配慮して、いい緑地を形成してください。

(谷田 一三)

### 関西大学堺キャンパス



多様で豊富な植栽が施された正面門付近



通路内に配された植栽帯



在来樹種を多く用いた敷地内の植栽

# 委員所感

## ■石川委員■

「都市の真ん中では環境教育はできない、自然環境の豊かな所に行かないと。」ということを目にすることがありますが、そのようなことはありません。都市には都市の環境があって、それへの気づきを深めたり、マネジメントする手法を学ぶことができます。

受賞施設はどれも周囲の人々に身近な緑とのふれあいを感じさせるものであり、自然と人の関わりで想像を働かせるきっかけになりうるものです。そこからさらに、自分たちの暮らすまちがこういうまちだといいなあという住民たちのイメージの共有化につながることを期待したいと思います。

## ■嘉名委員■

比較的大規模な敷地における集合住宅の計画のみならず、学校教育施設、都心の業務系施設、産業施設など、多様な施設において工夫の凝らされた緑化事例が集まったのが印象的でした。特に、既設建築物をリニューアルした事例や、建替の際に敷地にあった樹木を生かす形で建築を構成した事例など、ストックの有効活用や地域文脈の重視といった成熟時代の新たな緑化の新たな展望を予感させる事例がみられたと思います。集合住宅においても、地域に貢献する緑化の視点が組み込まれており、その公共性が広く浸透してきていることを実感しました。

## ■谷田委員■

応募された事案の設計・施工者の数が限られているという印象がある。公募の広報にさらに工夫が必要かもしれません。生態系回復や生物多様性保全を意識した応募もあったが、それらについての認識はまだまだ全般には低いようです。また、生態系や生物多様性を回復・保全するような緑化は、竣工時が完成ではないと思われ、10年、20年、50年後の状態が問題だと思います。このような視座も審査のなかに取り入れたいものです。

## ■辻本委員■

緑の量はもちろん、生態系への配慮、既存木の保存、周辺景観への寄与は、今や、緑化の基本となってきた。知事賞に選ばれた施設は、それに加え、いかに五感、それらを総合した想覚に訴える緑化かで評価される。大阪木材仲買会館のサクラは2本であるが、何年も町を見守ってきた、そのサクラを守ってきた人々の心が道行く人に感動を与える。自然から離れた生活になりがちな思春期に、身近で体験できる緑を提供した東大谷高等学校。この緑は卒業後の彼らの生き方もかえるかもしれない。最後に単に地域の樹種を選択するだけでなく、五感に訴える植物素材、デザイン、ボリュームで緑化されたミリカ・ヒルズも高く評価される。

## ■花田委員■

近年、ヒートアイランド対策や魅力ある景観作りの観点から、大都市における大規模施設の緑化の重要性が高まってきています。本賞の審査においても、緑化そのものに対する評価とともに、周辺環境との調和や敷地外部への貢献度など、都市空間における当該緑化の果たす役割という観点からの評価も行いました。今回は応募数が8点と少なかったのですが、いずれも周辺の都市空間の環境改善に大きく寄与していることがうかがえました。今後は工場施設などからの応募や、生物多様性への配慮など生態系ネットワークの観点を重視した緑化などの応募にも期待致します。

## ■藤田委員■

応募されたみなさま、ありがとうございます。おおさかの魅力向上に貢献されますみなさまの活動に感謝いたします。受賞の有無にかかわらず、こうしたみなさまの活動を継続的に続けていただき、10年後、20年後にもおおさかのみどり豊かな地域づくりの中核を担っていただきたいと思います。

そのためには、周辺のみどりとの連続性や生物多様性への考慮、地域のひととのかかわりや連携が今まで以上に求められるのではないのでしょうか。

みなさまの活動のひとつひとつの点がつながり、面的な広がりを見せることを期待するとともに、みなさまの緑の活動が今後どのような展開をみせるのか、期待しています。

# おおさか優良緑化賞



## 応募対象

顕彰実施年度の前5年度から前年度までに、緑化が完了した施設で、かつ、下記①～③のいずれかに該当するもの。

- ①条例第34条第1項及び第2項に基づき緑化計画書及び緑化完了書の届出を行った施設
- ②条例第35条第3号の規則で定める施設（敷地面積1,000㎡未満の施設は除く。）
- ③条例第38条に該当する市町村については、当該市町村の緑化に関する条例に基づく届出などを行った施設で、その条例の基準を満たすもの（敷地面積1,000㎡未満の施設は除く。）

## 応募方法

申請書類を所管の市町村担当窓口へ提出してください。

## 申請書類

- ①応募申請書（「おおさか優良緑化賞」実施要綱 様式第1号）
- ②応募用紙
- ③緑化完了書一式（写し可、緑化完了図、面積計算図、樹種一覧含む）
- ④現地写真（緑化状況について施工前・後の比較ができるもの）
- ⑤その他参考資料（緑化のコンセプトが分かるPR資料など）

## 選考基準

賞の選考基準は、適切な維持管理設備・体制が整っていることのほか、下記のとおりです。

- ①条例の基準を大幅に超える緑化が行われているもの（視覚的な緑量の確保）
- ②建築物や周辺環境と調和した緑化が行われているもの（建築物とのバランス、周辺の景観形成への寄与度）
- ③スペースを有効利用しているもの（緑化空間のデザイン性、配置の工夫）
- ④敷地外部への貢献度の高いもの（接道部の緑化、緑地利用の工夫）
- ⑤新技術を積極的に採用しているもの（先進技術の導入、技術面での工夫、グレードの高い緑化）
- ⑥その他、この賞の目的に沿ったもの（生物多様性への配慮、その他特筆事項の有無）

## 選考方法

大阪府環境審議会環境・みどり活動促進部会による選考を経て、大阪府が受賞者を決定。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/ryokkaseido/ryokkashou.html>

おおさか優良緑化賞 検索



大阪府

環境農林水産部みどり・都市環境室  
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16  
TEL 06(6210)9558 / FAX 06(6210)9551

メールアドレス [midorikankyo@sbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:midorikankyo@sbox.pref.osaka.lg.jp)

ホームページ <http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/midori/index.html>

このパンフレットは4500部作成し、1部あたりの単価は14.2円です。

平成26年2月発行